

日中韓台における 機械情報産業貿易と分業に関する考察

小林 哲也

はじめに

2011年の我が国の貿易収支は、31年ぶりの赤字を計上した。要因としては、3月11日に発生した東日本大震災による影響と、それに関連した原子力発電の停止に伴う火力発電による発電量の増加のために、エネルギー輸入が大幅に拡大したためともいわれている。一方で、輸出は、2010年から減少しており、輸入増と輸出減が貿易収支赤字をもたらした。日本からの輸出の減少は、福島第一原子力発電所事故による風評被害の側面もあったものの、中期的には日本の製造業の競争力低下との指摘もある。実際、テレビを中心とした家電製品における日本メーカーのグローバル競争力は、相対的に低下しており、グローバル市場における家電製品のシェアは韓国メーカーが上位となっている。これまで完成品を輸出することによって利益を得てきた我が国の貿易構造が、ここにきて大きく変化しているとの指摘も存在する。他方で、完成品については韓国や中国などが優位にあるが、完成品を構成する部品や原材料、さらにそれら製品を製造する機械については日本メーカーに圧倒的な優位があり、韓国や中国の完成品輸出が拡大すれば拡大するほど、部品輸出によって日本の輸出は増大するとの指摘もある。これらの論点については多くの先行研究が存在する。特に、我が国政府にとってもこの問題は重要な問題と認識しているものと思われ、2011年版の通商白書では、この点に多くの分量を割いている。

一方で、円高時代に突入した我が国は、輸出が厳しい状況に直面し、相対的に高い法人税や労働コストなどを背景として生産拠点を国内から海外にシフトする企業も増えていた。2011年の我が国の対外直接投資は、約1,158億ドルとなっており、2008年の1,308億ドル以来の1,000億ドル越えとなった。これは、2010年の約572億ドルからおよそ2倍の増加となっている。内訳をみると、製造業が約580億ドル、非製造業が578億ドルとなっておりほぼ拮抗しているが、前年と比較してみると、2010年の製造業の対外直接投資は178億ドル、非製造業は394億ドルとなっていることから、製造業の対外直接投資が大幅に増加していることがわかる。2012年の

統計データでは、6月までの半年ですでに、約600億ドルを計上していることから、2012年についても、1,000億ドル越えが予想され、過去最高を計上した2008年と同レベルに達する可能性も考えられる⁽¹⁾。この点についても、国内から生産拠点を海外にシフトしたことで、輸出の減少となり、空洞化が進展するとの見方や、対照的に、生産拠点の海外シフトによって必要となる部品や原材料の輸出がさらに増加するとの意見も存在する。

そこで本稿では、日本、中国、韓国、台湾の4か国・地域⁽²⁾の貿易統計からそれぞれに向けた輸出入をみとめることで、東アジアにおける貿易構造がどのようなになっているのかを分析することで、東アジアの貿易構造を把握し、その関係性を探ることを目的とする。

1. 分析の枠組み

本稿における分析枠組みとしては、製造業の中でもいわゆる機械情報産業⁽³⁾とよばれる「一般機械器具」、「電気機械器具」、「情報通信機械器具」、「電子部品・デバイス」、「輸送用機械器具」、「精密機械器具」を中心に各国・地域の貿易統計を対象とする。分析対象年としては現状で最新の暦年データが利用できる2011年と直近で最も日本の輸出額が多かった2008年を分析対象とした。2008年は、10月にリーマンショックが発生したが、日本以外の東アジアの諸国にとっても輸出が最も好調であった時期でもある。なお、比較的広い枠組みで分析する場合には、より広い統計データを利用している。特に、2007年から機械情報産業に属するいくつかの品目における貿易統計上の分類見直しが行われたことから、経年分析を行う場合には、2007年から2011年の間で実施した。貿易統計の出典については、日本は財務省が発表している貿易統計を利用し、その他については米国WTI社が提供するWorld Trade Atlasを利用して各国の貿易統計を機械情報産業について抽出した。貿易統計については国際的に統一されているHSコードで6桁分類を用いた。対象となる品目は、「第84類 原子炉、ボイラー及び機械類並びにこれらの部分品」、「第85類 電気機器及びその部分品並びに録音機、音声再生器並びにテレビジョンの映像及び音声の記録用又は再生用の機器並びにこれらの部分品及び附属品」、「第86類 鉄道用又は軌道用の機関車及び車両並びにこれらの部分品、鉄道又は軌道の線路用装備品及びその部分品並びに機械式交信信号用機器（電気機械式のものを含む）」、「第87類 鉄道用及び軌道用以外の車両並びにその部分品及び附属品」、「第88類 航空機及び宇宙飛行体並びにこれらの部分品」、「第89類 船舶及び浮き構造物」、「第90類 光学機器、写真用機器、映画用機器、測定機器、検査機器、精密機器及び医療用機器並びにこれらの部分品及び附属品」、「第91類 時計及びその部分品」とした。ただし、一部の分析においては、機械情報産業以外の品目も分析対象として取り扱う。なお、紙幅の都合上、以下では、「84類 一般機械」、「85類 電気機器」、「86類 鉄道機器」、

「87類 輸送用機器」,「88類 航空機」,「89類 船舶」,「90類 電子機器」,「91類 時計」というように、一般的な名称を用いる。これは、HS 6桁分類においても同様に、品目分類表で記載されている品目名ではなく一般的な名称を用いる。

金額はすべて米国ドル表示で分析した。ただし、日本については円建て貿易統計データに税関が公表している「税関長公示レート of 年平均」に対応させて米国ドルに変換した⁽⁴⁾。

ここで本稿における問題点を指摘しておく。第1に、機械情報産業を取り上げたことから、東アジアの2国間相互の貿易を見る際に大きな数字を示している一部品目を詳細な分析対象から外した点があげられる。例えば、4か国・地域の主要な貿易品目である石油類(第27類)、日本の対中輸入における繊維製品(第61類・62類)などは分析対象から外れている。

第2に、各国の貿易統計を利用しているため、輸出元の輸出額と受け入れ側の輸入額の間乖離が存在する。これは、当局の体制などの問題やシステム上の問題、為替の問題などさまざまな点から出てくるものであるが、調整等を行わずそのまま利用した。よって、本稿中で金額の乖離が出現する場合もあることをお断りしておく。

2. 先行研究

複数国間の貿易構造を貿易統計によって比較した先行研究はこれまでも数多く存在した。特に80年代以降、東アジア各国の経済成長とそれに伴う輸出の拡大、日本からアジア各国への生産拠点の移管とそれに連動する形でのいわゆる「持ち帰り」や「逆輸入」という形での貿易の進展や、アジア拠点を活用したグローバル供給拠点の役割などから、この種の研究は、80年代以降数多く見ることができる。さらに、1997年に発生したアジア通貨危機をきっかけとして、アジア諸国からの輸出体制がさらに強化されるようになり、日本がFTA推進に舵を切りなおした2000年代に入ったころから、東アジアでの国際分業の枠組みを論じる研究が発表されるようになった。天野(2005)は、電子機械産業に焦点を当て、東アジアにおける国際分業構造の可能性とその有効性を指摘している。大木(2008)では、東アジアでの国際分業を論じ、その取引拡大の可能性を指摘しつつ、日本の限界を補うため東アジアのリソースを活用すべきであると指摘している。

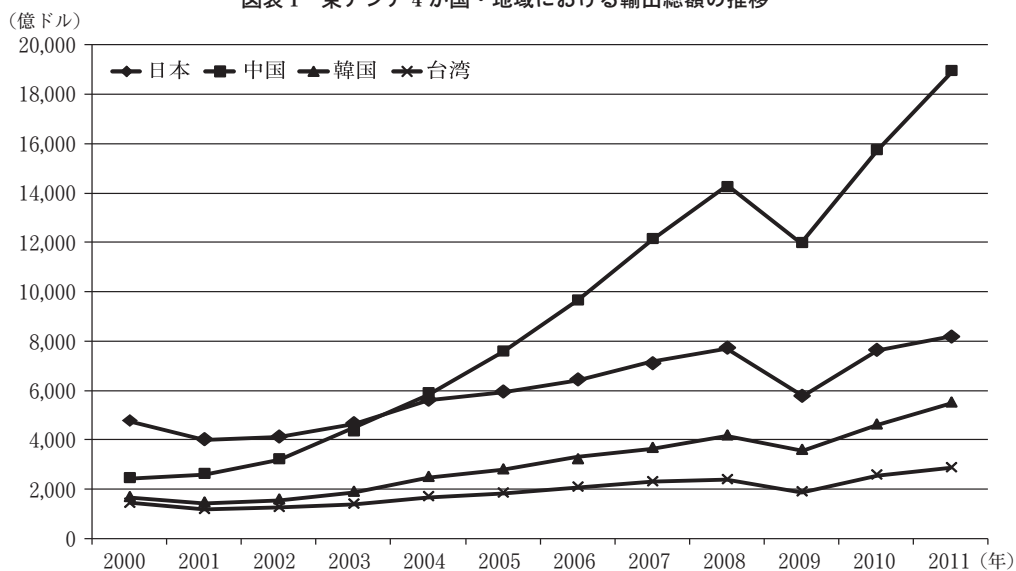
東アジアにおける貿易や経済協力体制に関する研究は、これが先行した日韓関係において見ることができる。機械振興協会(2006)では、両国間の貿易統計を検討することで、日韓機械情報産業の強みと弱みを分析し、両国間で技術や事業に関して情報や知財権等を共同活用、再利用しあうことを提言しており、日韓産業間の競争環境を超えた提言を示している。水野(2011)は、韓国側に立って韓国の対日貿易赤字問題を分析する中で、これまで韓国側が主張してきた韓国内

に中小企業の蓄積がないことが日本からの部品輸入につながり、これが貿易赤字の要因であるという主張を、貿易統計分析から否定し、その構造的な課題を指摘している。通商白書（2011）は、東アジアにおける国際貿易構造を分析しており、域内補完から国内調達が高まることで、競合関係が強まることを指摘している。これら以外にも東アジア間の貿易関係を見る多くの研究は、2国間研究のレベルから、多国間レベルものまで多数存在するが、多くのケースは2008年のリーマンショックによって影響される前のケースがみられる。他方で、リーマンショック後に発表されたものでも2国間関係に限定されているものが多い。リーマンショックの影響後の東アジアの多国間の関係を分析した研究の代表例は、通商白書（2011）である。しかし、詳細分析を見ると、完成品や部品といった枠組みはとらえているものの、具体的にどの品目が「完成品」で、どの品目が「部品」なのかを説明してはいない。実際、具体的にどんな品目の貿易が行われているのかは、ここからとらえられてはいない。本研究ではこの点に着目して分析を進めていく。

3. 各国の対世界貿易の状況

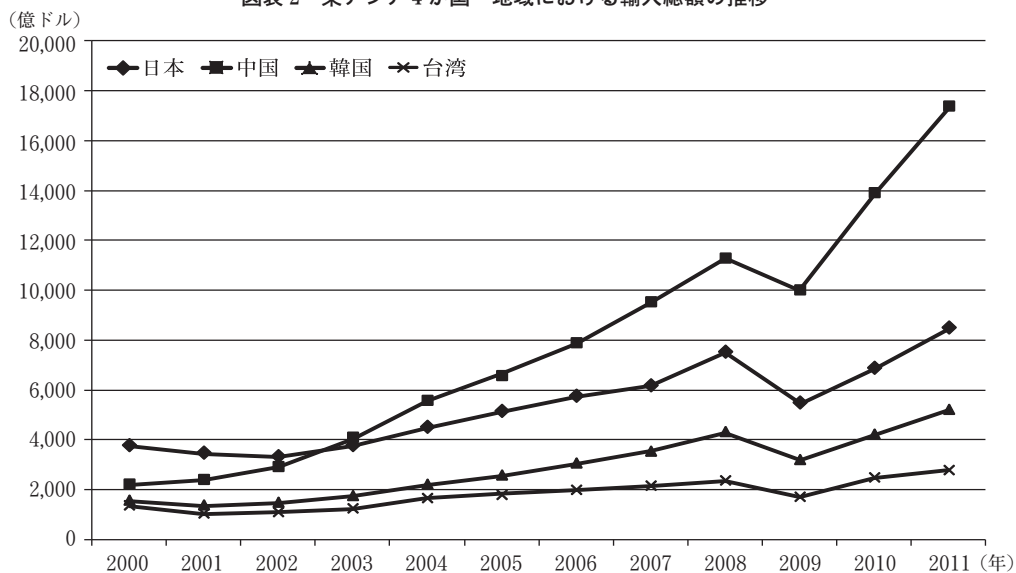
品目ごとの分析に入る前に、各国の貿易概況を見てみる。日本の貿易収支は、前述のとおり、2011年に赤字となった。しかし、輸出と輸入のトレンドを見てみると、2009年のリーマンショックによる落ち込みから各国とも回復している。輸出の状況を見てみると、2001年に若干の落ち込みを見せた後、増加傾向を示し続けてきた中国を除く各国の輸出は、2009年に落ち込みを見せた後、回復し、2011年には2000年以降で最大の輸出額を計上している。この間、中国は一貫して輸出を急拡大した後、2009年に大幅な落ち込みを示したが、翌年には回復しその後も急拡大を示し、2011年にはこれまでで最大の輸出額を計上した（図表1）。輸入についても同様の傾向を示しており、これまで順調に拡大してきた輸入も、2009年に大幅な落ち込みを示し、2010年には回復し拡大トレンドを示している（図表2）。このように、輸出額と輸入額のトレンドは各国とも同じような傾向を示しているものの、貿易収支については国によって違いがみられる。これは、リーマンショック後の国内市場の停滞や変化、これに連動した貿易構造の変化などが考えられる。具体的に、それぞれの貿易収支の推移をみてみると日本は、前述のとおり、2011年に貿易収支の赤字に転落した。それまでの、2000年から2010年までの間は貿易黒字の状況ではあったが、乱高下を示してきた。対照的に中国は、2003年までは安定的に推移していたものが、2004年から急速に貿易収支黒字を拡大していき、2008年まで急拡大を示していた。2011年でも大幅な貿易黒字を計上しているものの、2009年のリーマンショックによって貿易収支マイナス方向への動きを示している。このことは、輸出によって支えられていた中国の経済成長が、リーマンショックによる世界規模での市場低迷の影響によって輸出が縮小し、世界的な景気低迷に連

図表1 東アジア4か国・地域における輸出総額の推移



出所：各国・地域貿易統計より作成。

図表2 東アジア4か国・地域における輸入総額の推移



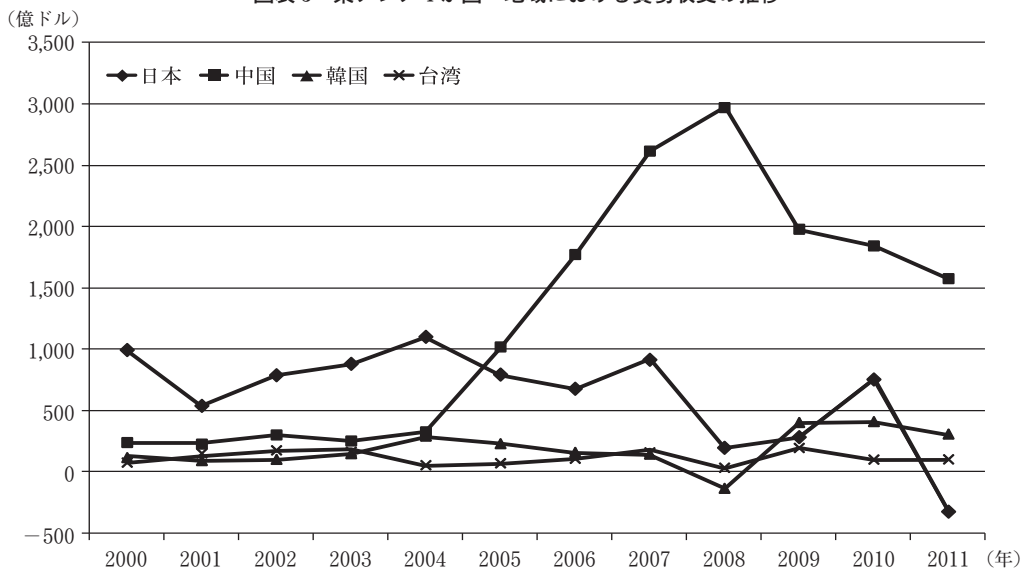
出所：図表1と同じ。

動した中国国内の景気低迷の引き金となった。その後の中国政府の景気回復策などにより、国内消費を拡大させることで成長を維持させる政策への転換のきっかけになったと考えられる。韓国では2007年までは安定的に推移してきたが、2008年に貿易赤字に転じ、2009年に黒字に回復、その後はこれまでより高めのトレンドで推移している。台湾は2000年以降安定的に推移してい

る（図表3）。

以下では、日本、中国、韓国、そして台湾が、世界にどのような品目を輸出しているのかをHS 6桁分類でみる（図表4）。ここから、4か国・地域間において相対的に競合する品目が計上されていることがわかる。例えば、日本、韓国、台湾でみると、「記憶素子IC・LSI（854232）」は、それぞれで世界に向けて輸出しており、韓国と台湾では金額面でも競合関係にある。日本の場合は輸出額が少ないものの、「その他のIC・LSI（854239）」も加えればほぼ匹敵する金額にもなっており、IC・LSIにおける競合関係が依然として続いているものと考えられる。また、中国、韓国、台湾で見ると、「携帯電話（851712）」およびその関連品目での競合関係がみられる。携帯電話については、韓国のサムスンやLG、台湾のHTC、中国のHuawei（華為技術）など世界的なメーカーが存在していることから、競合関係にあることは容易に想像がつく。さらに、「液晶デバイス（901380）」についても、上位にあり、金額面でも同水準にあることから、ここでも世界市場に向けた競合関係にあると思われる。日本についてみれば、競争優位のある自動車および自動車関連で大きな金額を計上している。韓国が「乗用車（ガソリンエンジン1,500-3,000cc）（870323）」を計上しているものの、日本の自動車関連産業の競争優位が示されているものと考えられる。以上の点から考えると、中国、韓国、台湾では電子・電気機械分野での世界市場に向けた競合関係が依然として続いている可能性が考えられ、日本は自動車関連産業における競争優位と、建機や一部製造装置の世界市場への供給拠点としての役割を果たしていると考えられる。

図表3 東アジア4か国・地域における貿易収支の推移



出所：図表1と同じ。

図表4 日本・中国・韓国・台湾の対世界輸出額上位10品目（6桁分類・百万米ドル）

(日本)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	乗用車（ガソリンエンジン、1,500-3,000 cc）	870323	46,720	51,161	30,095	44,094	44,335
2	乗用車（ガソリンエンジン、3,000 cc 超）	870324	33,056	32,530	18,341	27,508	24,212
3	その他の貨物船・貨客船	890190	9,480	11,522	12,875	16,905	18,608
4	ギアボックス及びその部分品	870840	11,034	11,338	9,914	14,960	16,690
5	石油・歴青油（除く軽質油・その調整品及び原油）	271019	7,442	16,145	8,842	10,274	13,180
6	プリンタ・複写機・ファクシミリの部分品・付属品	844399	12,839	13,455	10,768	12,297	12,446
7	その他のIC・LSI	854239	12,622	12,187	9,876	12,233	11,350
8	記憶素子IC・LSI	854232	7,395	7,236	7,502	10,297	9,861
9	メカニカルシヨベル等	842952	7,776	8,508	3,710	7,056	8,788
10	半導体製造装置	848620	7,623	5,425	3,288	7,913	8,559

(中国)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	ノートパソコン	847130	53,091	65,589	66,651	95,353	105,886
2	携帯電話	851712	36,099	38,926	39,796	47,068	63,192
3	携帯電話等の部分品及び附属品	851770	21,212	24,560	22,043	30,490	38,222
4	その他の貨物船・貨客船	890190	7,315	11,539	15,427	28,201	30,241
5	コンピュータ等の部分品	847330	32,285	31,373	25,727	30,688	29,937
6	液晶デバイス	901380	19,873	22,656	19,356	26,611	29,696
7	光電性半導体デバイス・発光ダイオード類	854140	5,267	11,790	10,748	25,182	27,943
8	携帯電話等の基地局	851762	15,053	19,336	18,588	22,178	25,524
9	プロセッサ・コントローラーIC・LSI	854231	12,191	12,396	13,010	15,462	16,965
10	石油・歴青油（除く軽質油・その調整品及び原油）	271019	5,182	10,494	9,219	12,656	16,565

(韓国)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	石油・歴青油（除く軽質油・その調整品及び原油）	271019	19,844	31,543	17,702	24,206	40,386
2	液晶デバイス	901380	16,258	17,951	23,114	29,648	27,308
3	乗用車（ガソリンエンジン、1,500-3,000 cc）	870323	16,595	16,793	14,342	19,337	26,293
4	その他の貨物船・貨客船	890190	11,747	13,771	13,236	20,165	20,298
5	記憶素子IC・LSI	854232	15,870	12,481	11,932	21,608	19,506
6	プロセッサ・コントローラーIC・LSI	854231	11,672	11,820	11,017	14,543	17,829
7	タンカー	890120	11,829	20,691	23,976	16,839	17,555
8	照明船・消防船・クレーン船	890590	1,032	5,395	5,005	9,350	16,000
9	自動車部品（その他のもの）	870899	9,784	10,806	8,851	14,069	15,373
10	携帯電話	851712	18,644	22,114	18,125	15,288	15,078

(台湾)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	その他のIC・LSI	854239	19,844	31,543	17,702	24,206	40,386
2	石油・歴青油（除く軽質油・その調整品及び原油）	271019	16,258	17,951	23,114	29,648	27,308
3	携帯電話	851712	16,595	16,793	14,342	19,337	26,293
4	液晶デバイス	901380	11,747	13,771	13,236	20,165	20,298
5	液晶デバイス等の部分品・付属品	901390	15,870	12,481	11,932	21,608	19,506
6	ダイオード	854140	11,672	11,820	11,017	14,543	17,829
7	印刷回路	853400	11,829	20,691	23,976	16,839	17,555
8	コンピュータ等の部分品	847330	1,032	5,395	5,005	9,350	16,000
9	記憶素子IC・LSI	854232	9,784	10,806	8,851	14,069	15,373
10	不揮発性半導体記憶装置	852351	18,644	22,114	18,125	15,288	15,078

注1：再輸出品は除く。

注2：品目名はHS品目分類における品目名ではなく、一般的なものに変更してある。

出所：日本は独立行政法人日本貿易振興機構、それ以外は各国貿易統計より作成。

一方で、各国・地域が世界からどのような品目を輸入しているのかをしてみる（図表5）。一般的な傾向として、日本、中国、韓国、台湾それぞれに、エネルギー輸入が上位品目を占めている。機械情報産業に限定して見てみると、日本は、9位に携帯電話が計上しており、この金額が着実に増加している。これまで日本の携帯電話業界は「ガラパゴス化」しており、国内市場の多くがいわゆる「ガラパゴス携帯」が占める割合が多かったが、韓国、台湾、中国の主要メーカーが日本向けの端末を製造してきたことが背景と思われる。それ以外には機械情報関連品目は計上されていない⁵⁾。他方で、中国、韓国、台湾では、輸出上位に計上されている品目も輸入上位に計上されているケースが見受けられる。中国では、輸出で9位に計上されていた「プロセッサ・コントローラー IC・LSI (854231)」が輸入でも3位に計上されており、輸出で6位に計上されていた「液晶デバイス (847330)」が輸入でも4位に計上されている。また、中国の輸入品にのみ注目しても、「記憶素子 IC・LSI (854232)」、「その他の IC・LSI (854239)」、「乗用車（ガソリンエンジン、1,500-3,000 cc）(870323)」といった品目の輸入が上位に計上されている。このことから、中国では、電子・電気機器製品の製造・輸出拠点ではあるものの、コア部品の一部については輸入に依存しなければならない状況が続いているものと思われる。この傾向は韓国でも確認できる。韓国でも輸出で6位の「プロセッサ・コントローラー IC・LSI (854231)」は、輸入でも5位となっており、輸出5位の「記憶素子 IC・LSI (854232)」は、輸入で7位となっている。また、「その他の IC・LSI (854239)」も輸入で10位を計上していることから、一部の半導体製品については輸入に依存している傾向が見られる。台湾でも「その他の IC・LSI (854239)」は輸出で1位、輸入で2位となっており、「記憶素子 IC・LSI (854232)」は、輸出で9位、輸入で7位となっている。

輸入について2つの点を考えてみる。まず第1に「半導体製造装置 (848620)」である。これについては半導体の輸出国である韓国と台湾において輸入上位となっている。一方で日本はこの品目の輸出が10位となっていることから、関係性が深いものと思われる。もう1つ注目する点は、機械情報産業関連の品目ではないが、「陰極銅・その切断片 (740311)」である。陰極銅は、形彫放電加工機を使用する際に、工作物との間で電気を通すことで工作物を融解除去し、目的の形状に加工するために用いられる電極と考えられる。形彫放電加工は時間がかかるものの、難加工材の加工や加工精度が高いなどの長所も持っている。形彫放電加工は、工具電極を工作物に転写加工することから、金型加工などに利用されている⁶⁾。この品目の中国の輸入の伸びは著しく、世界的な金融危機から2008年の輸入額は減少したものの、2011年には、2008年の2.5倍の248億ドルにまで拡大している。中国での金型の現地生産が進む中で、その加工精度を左右するといわれている形彫放電加工機の電極については輸入に依存しているものと思われる。

このよう輸出品目と輸入品目で同時に上位を計上している状況が、中国、韓国、台湾で見られ

図表5 日本・中国・韓国・台湾の対世界輸入額上位10品目（6桁分類・百万米ドル）

(日本)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	石油・歴青油（原油）	270900	103,966	153,408	80,177	105,287	141,620
2	液化天然ガス	271111	26,705	44,717	30,411	39,454	60,141
3	歴青炭（除く凝結させたもの）	270112	13,598	26,542	20,267	21,800	28,282
4	鉄鉱（含む精鉱，除く焼いた硫化鉄鉱，凝結させていないもの）	260111	7,619	11,529	7,985	13,927	19,622
5	石油・歴青油（軽質油及びその調製品，除く原油）	271011	13,318	16,114	9,503	14,160	19,189
6	再輸入品，航空機用品		10,194	11,880	10,240	11,889	12,282
7	銅鉱（含む精鉱）	260300	10,817	9,930	8,214	12,038	11,453
8	その他胃腸薬等医薬品	300490	4,520	5,404	7,422	9,040	11,036
9	携帯電話	851712	1,631	2,148	3,017	5,038	9,236
10	石油・歴青油（除く軽質油・その調製品及び原油）	271019	3,554	6,910	3,244	4,536	8,632

(中国)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	石油・歴青油（原油）	270900	79,684	128,960	88,896	134,936	195,131
2	鉄鉱（含む精鉱，除く焼いた硫化鉄鉱，凝結させていないもの）	260111	30,948	55,666	47,067	75,171	105,448
3	プロセッサ・コントローラー IC・LSI	854231	79,868	80,900	70,975	86,048	98,049
4	液晶デバイス	901380	41,778	45,023	35,087	46,818	47,350
5	記憶素子 IC・LSI	854232	25,672	22,818	21,757	34,939	35,115
6	その他の IC・LSI	854239	19,367	22,051	23,652	30,831	31,339
7	大豆	120100	11,465	21,816	18,790	25,089	29,840
8	石油・歴青油（除く軽質油・その調製品及び原油）	271019	15,415	27,047	14,990	19,985	29,597
9	乗用車（ガソリンエンジン，1,500-3,000 cc）	870323	4,296	5,670	8,447	18,013	26,276
10	陰極銅・その切断片	740311	10,311	9,820	15,539	21,675	24,809

(韓国)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	石油・歴青油（原油）	270900	60,324	85,855	50,757	68,662	100,779
2	液化天然ガス	271111	12,653	19,806	13,875	17,006	23,881
3	石油・歴青油（軽質油及びその調製品，除く原油）	271011	10,713	15,507	10,709	15,003	18,903
4	無煙炭（除く凝結させたもの）	270112	5,675	11,156	8,997	11,425	16,044
5	プロセッサ・コントローラー IC・LSI	854231	15,529	14,812	11,450	12,820	13,557
6	鉄鉱（含む精鉱，除く焼いた硫化鉄鉱，凝結させていないもの）	260111	2,672	4,482	3,037	5,691	9,983
7	記憶素子 IC・LSI	854232	4,390	5,678	3,922	5,397	6,323
8	半導体製造装置	848620	5,659	3,516	2,214	6,726	5,803
9	銅鉱（含む精鉱）	260300	3,347	3,514	3,294	4,537	5,641
10	その他の IC・LSI	854239	5,130	5,166	6,044	5,438	5,366

(台湾)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	石油・歴青油（原油）	270900	24,553	33,035	19,692	25,797	30,361
2	その他の IC・LSI	854239	0	0	18,141	23,829	24,433
3	石油・歴青油（除く軽質油・その調製品及び原油）	271019	8,498	12,259	6,371	11,380	12,818
4	無煙炭（除く凝結させたもの）	270112	4,374	7,672	5,808	6,650	8,688
5	液化天然ガス	271111	4,293	6,814	3,912	5,782	8,345
6	半導体製造装置	848620	0	0	2,153	6,055	7,069
7	記憶素子 IC・LSI	854232	0	0	4,922	6,458	6,135
8	陰極銅・その切断片	740311	4,352	4,266	2,446	3,855	3,982
9	シリコンウェハー	381800	3,223	3,570	2,198	3,814	3,775
10	プロセッサ・コントローラー IC・LSI	854231	0	0	1,225	2,279	3,034

注1：特殊取扱品は除く。

注2：品目名は HS 品目分類における品目名ではなく，一般的なものに変更してある。

出所：図表4と同じ。

ることから、輸出上位品目がそのまま、それぞれにとっての優位品目であるとは言えない。図表4で示した各品目の貿易特化係数を見てみると、多くの品目は圧倒的な輸出優位の状況にあるものの、前述したIC・LSIに関しては、どこも圧倒的な優位にあるとは言い難い状況である（図表6）。たとえば、日本の「その他のIC・LSI（854232）」の貿易特化係数は0.14とほとんど競合状態に近い状況にあり、「記憶素子IC・LSI（854232）」は0.35となっている。同様に、韓国の「記憶素子IC・LSI」も0.51、台湾の「記憶素子IC・LSI」は0.43となっており、図表に示した品目の中でも特化係数の数字が0により近い数字を示している。さらに中国の「プロセッサ・コントローラIC・LSI（854231）」は-0.70と比較的大きな劣位の数字を示しており、輸出額が大きい品目が競争優位にあるとは言えない結果を示している。この点からも、日本、中国、韓国、台湾における世界市場でのIC・LSIの競合関係が存在しているものと考えられる。ただし、ここでは、貿易統計の金額のみで判断しているため、機能や付加価値等によって、同じ品目であってもすみ分けが行われている可能性は否定できないものの、電子機器関連では概して競合関係にあるのではないかと思われる結果となった。また、「その他の国は完成品輸出に優位があるが、日本はそれら製品の部品や素材、製造機械で優位を確保している」という構造については、「半導体製造装置（848620）」では見ることができたが、日本以外のIC・LSIの輸出の伸びと比較して、日本の半導体製造装置輸出額の伸びが小さいのではないかと考えられる。ただ、少なくともIC・LSIと半導体製造装置のような関係が、それ以外の品目では、輸出上位からは確認できなかった。

次に、日本、中国、韓国、そして台湾の主要市場であるアメリカ向け輸出の競合関係をみてみる（図表7）。これも、2011年の輸出額上位10品目を2007年からの推移で示したものである。日本の対米輸出額上位10品目を見てみると、ほとんどの品目において、中国や台湾との競合は見られないようである。韓国については「乗用車（ガソリンエンジン、1,500-3,000 cc）」と「乗用車（ガソリンエンジン、3,000 cc以上）」で競合関係が見られるものの、金額としては、「乗用車（ガソリンエンジン、1,500-3,000 cc）」で韓国の輸出額の約2.2倍、「乗用車（ガソリンエンジン、3,000 cc以上）」ではおよそ11倍となっており、金額面から輸出品では日本の圧倒的な優位と思われる。さらに、輸送用機器の部品や建設機械、半導体製造装置などが上位にあることから、日本とその他の3か国・地域との間では、アメリカ市場向け輸出に関してはすみ分けが構築されていると考えられる。

中国、韓国、台湾の対米輸出について注目する点は電子・電機産業の品目にある。たとえば、「ノートパソコン」については、台湾も計上しているものの、中国からの輸出が圧倒的であり、その差は、台湾の輸出額の51倍にも達しており、中国の圧倒的な優位を示している。他方で、「携帯電話」は、前述のように、韓国、中国、台湾それぞれにグローバル企業が存在しており、

図表6 日本・中国・韓国・台湾の対世界輸出額上位10品目の貿易特化係数(6桁分類)

(日本)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	乗用車(ガソリンエンジン, 1,500-3,000 cc)	870323	0.82	0.87	0.85	0.86	0.82
2	乗用車(ガソリンエンジン, 3,000 cc 以上)	870324	0.85	0.86	0.85	0.89	0.83
3	その他の貨物船・貨客船	890190	0.99	0.99	0.98	0.96	0.98
4	ギアボックス及びその部分品	870840	0.92	0.86	0.91	0.89	0.90
5	石油・歴青油(除く軽質油・その調整品及び原油)	271019	0.35	0.40	0.46	0.39	0.21
6	プリンタ・複写機・ファクシミリの部分品・付属品	844399	0.74	0.76	0.73	0.71	0.71
7	その他のIC・LSI	854239	0.21	0.19	0.23	0.18	0.14
8	記憶素子IC・LSI	854232	0.01	0.03	0.14	0.18	0.35
9	メカニカルシヨバル等	842952	1.00	1.00	1.00	1.00	0.99
10	半導体製造装置	848620	0.57	0.54	0.75	0.75	0.67

(中国)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	ノートパソコン	847130	0.98	0.99	0.99	0.99	0.99
2	携帯電話	851712	0.90	0.91	0.91	0.95	0.96
3	携帯電話等の部分品及び付属品	851770	0.21	0.29	0.23	0.28	0.22
4	その他の貨物船・貨客船	890190	0.84	0.85	0.90	0.97	0.98
5	コンピュータ等の部分品	847330	0.31	0.35	0.32	0.24	0.28
6	液晶デバイス	901380	-0.36	-0.33	-0.29	-0.28	-0.23
7	光電性半導体デバイス・発光ダイオード類	854140	0.16	0.45	0.43	0.55	0.55
8	携帯電話等の基地局	851762	0.69	0.73	0.71	0.68	0.66
9	プロセッサ・コントローラーIC・LSI	854231	-0.74	-0.73	-0.69	-0.70	-0.70
10	石油・歴青油(除く軽質油・その調整品及び原油)	271019	-0.50	-0.44	-0.24	-0.22	-0.28

(韓国)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	石油・歴青油(除く軽質油・その調整品及び原油)	271019	0.91	0.91	0.82	0.82	0.86
2	液晶デバイス	901380	0.87	0.84	0.89	0.85	0.83
3	乗用車(ガソリンエンジン, 1,500-3,000 cc)	870323	0.90	0.90	0.90	0.89	0.91
4	その他の貨物船・貨客船	890190	0.81	0.72	0.77	0.81	0.84
5	記憶素子IC・LSI	854232	0.57	0.37	0.51	0.60	0.51
6	プロセッサ・コントローラーIC・LSI	854231	-0.14	-0.11	-0.02	0.06	0.14
7	タンカー	890120	0.94	0.92	0.93	0.95	0.96
8	照明船・消防船・クレーン船	890590	0.86	0.96	0.94	0.93	1.00
9	自動車部品(その他のもの)	870899	0.83	0.84	0.84	0.86	0.85
10	携帯電話	851712	0.95	0.95	0.96	0.81	0.73

(台湾)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	その他のIC・LSI	854239	1.00	1.00	-0.01	0.01	0.25
2	石油・歴青油(除く軽質油・その調整品及び原油)	271019	0.31	0.19	0.57	0.45	0.36
3	携帯電話	851712	1.00	1.00	0.88	0.89	0.90
4	液晶デバイス	901380	0.79	0.87	0.90	0.94	0.91
5	液晶デバイス等の部分品・付属品	901390	0.92	0.90	0.93	0.93	0.91
6	ダイオード	854140	0.91	0.89	0.89	0.84	0.88
7	印刷回路	853400	0.88	0.92	0.94	0.88	0.87
8	コンピュータ等の部分品	847330	-0.40	0.44	0.59	0.70	0.84
9	記憶素子IC・LSI	854232	1.00	1.00	0.29	0.37	0.43
10	不揮発性半導体記憶装置	852351	1.00	1.00	0.90	0.80	0.78

注：図表4と同じ。

出所：図表4と同じ。

図表 7 各国の対米輸出額上位 10 品目 (HS 6 桁分類・百万米ドル)

(日本)

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	乗用車 (ガソリンエンジン, 1,500-3,000 cc)	870323	16,398	16,183	12,323	16,319	16,336
2	乗用車 (ガソリンエンジン, 3,000 cc 超)	870324	21,166	16,590	9,227	13,246	11,315
3	プリンタ・複写機・ファクシミリの部分品・付属品	844399	3,790	4,053	3,292	3,343	3,440
4	ギヤボックス及びその部分品	870840	3,057	2,675	1,965	2,948	3,407
5	その他の飛行機・ヘリコプターの部品	880330	1,766	1,556	1,929	1,976	2,503
6	半導体製造装置	848620	1,259	1,024	707	1,457	2,055
7	テレビジョンカメラ・デジタルカメラ・ビデオカメラレコーダー	852580	3,401	3,237	2,050	2,295	1,960
8	乗用車 (ガソリンエンジン, 1,500 cc 以下)	870322	5,983	6,754	2,219	2,124	1,838
9	自動車部品 (その他のもの)	870899	2,464	2,153	1,387	1,793	1,740
10	メカニカルシャベル等 (上部構造が 360 度回転するもの)	842952	1,277	1,056	260	674	1,666

(中国)

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	ノートパソコン	847130	15,513	17,996	21,736	29,269	35,032
2	携帯電話	851712	9,520	6,778	6,066	6,463	9,921
3	コンピュータ等の部分品	847330	6,191	5,137	4,251	5,911	5,487
4	コンピュータ用記憶装置	847170	2,203	2,882	3,032	3,955	5,321
5	カラーテレビ	852872	3,810	4,744	5,013	5,964	5,026
6	データを送受信・再生する電話機等	851762	2,772	3,206	3,748	4,777	4,969
7	車輪付き玩具, 人形, その他の玩具	950300	3,690	3,580	3,111	3,855	3,845
8	その他の革製履物 (除く本底が革製, くるぶしを覆わないもの)	640399	3,017	3,474	3,205	3,918	3,807
9	プリンター・複写機・ファクシミリ複合機	844331	2,116	2,312	2,206	3,083	3,657
10	コンピュータ	847150	1,360	1,802	1,743	3,109	3,199

(韓国)

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	携帯電話	851712	5,096	7,877	7,840	7,854	8,090
2	乗用車 (ガソリンエンジン, 1,500-3,000 cc)	870323	5,642	5,143	4,547	5,362	7,342
3	自動車部品 (その他のもの)	870899	2,058	1,862	1,505	2,638	2,692
4	石油・壓青油 (除く軽質油・その調整品及び原油)	271019	3,629	1,495	1,398	2,895	2,381
5	コンピュータ等の部品	847330	1,833	1,314	1,321	2,422	1,421
6	乗用車 (ガソリンエンジン, 3,000 cc 以上)	870324	2,395	2,072	835	1,234	1,288
7	乗用車用のタイヤ	401110	517	553	479	920	1,146
8	冷凍冷蔵庫	841810	439	641	618	853	985
9	ベンゼン	290220	460	507	201	484	741
10	照明船, 消防船, クレーン船	890590	1	479	0	0	693

(台湾)

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	携帯電話	851712	0	0	1,788	4,148	6,304
2	コンピュータ等の部品	847330	1,792	1,399	1,113	1,401	1,208
3	その他の IC・LSI	854239	0	0	810	965	1,080
4	ビデオディスプレイ又はスクリーンを自蔵しないテレビ受像機	852871	0	0	695	856	826
5	鋼鉄製ねじ・ボルト	731815	653	717	420	609	697
6	ノートパソコン	847130	151	137	104	138	675
7	自動車部品 (その他のもの)	870899	605	563	466	553	585
8	航行用無線機器	852691	1,084	1,018	760	635	573
9	印刷回路	853400	490	475	315	407	427
10	照明・可視信号用機器 (除く自転車用)	851220	321	278	302	353	400

注: 図表 4 と同じ。

出所: 図表 4 と同じ。

グローバル市場でも優位を構築しているが、競合関係は、アメリカ市場向け輸出についても同様である。金額面でも、中国の99億ドル、韓国の80億ドル、台湾の63億ドルとなっており、韓国、台湾では対米輸出品目第1位、中国でも第2位となっており、苛烈な競合関係にあると思われる。

さらに、各国の対世界輸出額上位10品目と対米輸出額上位10品目を比較してみると、日本の品目は、大きくかけ離れているとは考えにくく、対世界輸出額上位10品目のうち、6品目が対米輸出額上位10品目に計上されており、計上されていなくとも、「乗用車（ガソリンエンジン、1,500 cc 以下）（870322）」のように関連する品目であるケースが見受けられる。つまり、世界市場向けの優位とアメリカ市場向けの優位に大きな差はないと考えられる。対照的に中国、韓国、台湾の場合には、中国では3品目、韓国では4品目、台湾では2品目と少なく、アメリカ市場向けの優位は、世界市場向けの優位の一部にすぎないものと思われる。

4. 各国の分析対象国向け2国間貿易の状況

日本、中国、韓国、台湾のそれぞれの輸出国上位を見ても、アジア各国とアメリカとなっており、年によっては順位に変化が見えるものの、相手先国そのものに大きな違いはない。そこで、日本、中国、韓国、台湾とアメリカとの間の2国間輸出額の状況を2008年と2011年で比較してみる（図表8）。日本の対米輸出は2008年から2011年に減少したが、アメリカ向け以外の輸出額については増加している。対中輸出額は、2008年でも対米輸出同様に大きな金額を計上しており、2011年には対米輸出額を逆転し、日本にとって最大の輸出相手国となっている。対韓輸出額は対米輸出額の半分程度ではあるものの、2008年から増加を計上している。対台輸出額については対中輸出額の3分の1程度の数字となっているものの、これも2008年から拡大している。対韓および対台輸出額の伸びは1割ほどであることから、対中輸出額の半分程度の伸び率となっている。そこで、日本の輸出総額に占める割合を見てみると、対米輸出シェアは18%から15%に低下した一方、対中輸出シェアは16%から20%に拡大し、対韓輸出シェアは8%でほとんど変化がなく、対台輸出シェアも6%でほとんど変化はない。ここからも、日本の輸出における中国の役割が、金額面でもシェアの面でも大きくなっていることがわかる。中国の状況を見てみると、金額面では2008年から2011年に増加を示しているが、国別の割合を見てみると、それほど大きな変化がないことから、輸出構造に変化はなく、全体として輸出額の増加がみられたものと考えられる。韓国の輸出額の状況を見てみると、それぞれ向けの輸出額の増加は示されているが、対日、対米、対台輸出シェアは大きく変化していない。しかし、対中輸出シェアは増加しているので、日本同様、中国向け輸出の重要性が増しているものと考えられる。台湾の輸出額を

図表 8 東アジア 4 か国・地域における輸出額と輸出総額に占める割合のマトリックス

(億ドル)

		日 本		ア メ リ カ		中 国		韓 国		台 湾	
日 本	2008 年			1,363	17.6%	1,242	16.0%	591	7.6%	459	5.9%
	2011 年			1,252	15.3%	1,613	19.7%	659	8.0%	507	6.2%
ア メ リ カ	2008 年	651	5.1%			697	5.4%	347	2.7%	249	1.9%
	2011 年	657	4.4%			1,039	7.0%	434	2.9%	259	1.7%
中 国	2008 年	1,423	10.0%	2,523	17.7%			739	5.2%	258	1.8%
	2011 年	1,831	9.6%	3,243	17.1%			829	4.4%	350	1.8%
韓 国	2008 年	293	6.9%	463	11.0%	913	21.6%			114	2.7%
	2011 年	396	7.1%	562	10.1%	1,342	24.2%			181	3.3%
台 湾	2008 年	217	8.9%	295	12.1%	629	25.9%	89	3.7%		
	2011 年	231	7.9%	349	12.0%	782	26.8%	119	4.1%		

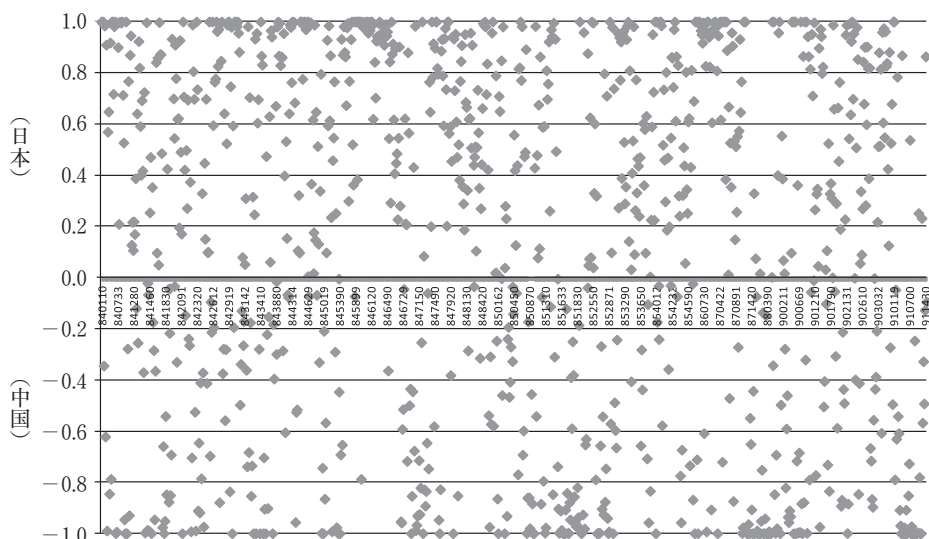
出所：図表 1 と同じ。

見ても、同様に増加傾向を示している。輸出シェアについてはほとんど横ばいか若干の増加傾向を示しているが、対日シェアのみ若干の減少となっている。以上の点からまとめてみると、貿易額についてはほとんどのケースで増加を示しており、全体の傾向と同じ状況である。しかしながら、日本の輸出について、第 1 に対米輸出額とシェアの減少が見えること、第 2 に輸出額、シェアともに中国の重要性が拡大していることがあげられる。しかし、対中輸出については、日本以外のそれぞれの輸出額は、2008 年の段階ですでにアメリカをしのぐ状況になっており、2008 年の段階で中国は日本を除く各国にとって最大の輸出相手先となっていた。対照的に日本の輸出においては、2008 年ではアメリカが最大の輸出相手先であったことから、関係性の変化は、他の国よりも遅かったことがわかる。つまり、すべての国で対中輸出のシェアは増大していること、その中で、日本の対米シェア以外に変化はほとんどないことなどから、これらの国における輸出の構造は、対中輸出以外の構造にほとんど変化がなく、世界貿易の拡大と同じペースで各国向け輸出も拡大してきたことが考えられる。他方で、対中輸出については、中国の経済成長などから、そのシェアも拡大しており、今や最大の輸出相手先となっているという状況である。ここから、経済の回復が、中国向け輸出の状況に左右されると考えられる。

次に、各国ごとに分析対象国にどのような品目を輸出しているのかを機械情報産業についてと、輸出品目全体における輸出額上位 10 品目から見てみる。

日本と中国のそれぞれの向けの輸出額の競合状態を機械情報産業について見てみる（図表 9）⁷⁾。このグラフでは、1.0 付近に分布していれば日本に優位があり、-1.0 付近に分布していれば中国に優位、0 付近に分布していれば競合関係にあることを示しており、考え方としては貿易

図表9 日本と中国の機械情報産業輸出品における競合関係分布



出所：図表1と同じ。

特化係数と同じである。そのため、0 付近に品目が集中している場合には、競合関係にあり、1.0 および -1.0 付近の分布が目立つ場合には、すみ分け体制が構築されているものと考えられる。このグラフにおける分布を見てみると、日本側に優位のある品目が多く見受けられる。分布については、競合関係を示す指数の 1.0 および -1.0 付近の分布が目立っており、0 付近への分布は多く見られないことから、日本と中国の間で競合する品目はそれほど多くないと考えられる。全体的な傾向を見てみると、一般機械類 (84 類) と輸送機器類 (87 類) で、日本の優位が示されており、電気機械類 (85 類) や精密機械類 (90 類) では中国からの輸出に優位がある状況が示されている。競合状態を示す 0 付近に分類している品目は、それほど多くなく、真ん中付近の分布は分散化している傾向が示されている。この点からも、日中間の輸出品については競合というまでの状況には至っていないと考えられる。具体的な日本の対中輸出額上位 10 品目と、中国の対日輸出額上位 10 品目を比較してみると、日本からの輸出品の傾向としては、「自動車関連」、「製品製造機械」、「IC・LSI」で、中国からの輸出品の傾向は、「電子・電気製品」となっている (図表 10)。たしかに、日本から「液晶デバイス」を輸出し、中国から、「ノートパソコン」や「カラーテレビ」を輸出していることから、この点で工程間分業が成立しているとも考えられるが、中国からも「液晶デバイス」の輸出が盛んである。日本の輸出額のほうが多いとはいえ、貿易特化係数⁽⁸⁾は、+0.11 である。この数字から競合に近い状況が見られることから、当初予想していた「完成品を中国が輸出する代わりにその部品や材料を日本が輸出する」という工程間分業体制が構築されているとは言い難い。他方で、製品製造機械の日本からの輸出は見るこ

図表 10 日本・中国のそれぞれの輸出額上位 10 品目 (6 桁分類・百万米ドル)

(日本の対中輸出額上位 10 品目)

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	乗用車 (ガソリンエンジン, 1,500-3,000 cc)	870323	1,093	1,770	2,239	4,524	4,305
2	ギヤボックス及びその部分品	870840	1,595	2,011	2,765	3,890	4,227
3	記憶素子 IC・LSI	854232	999	979	1,515	2,615	3,598
4	液晶デバイス	901380	1,204	1,478	1,582	2,820	3,490
5	プロセッサ・コントローラ IC・LSI	854231	3,791	3,455	2,387	2,708	2,770
6	その他の IC・LSI	854239	2,666	2,535	1,975	2,808	2,681
7	その他の機械 (固有の機能を有するもの)	847989	1,771	1,740	1,035	2,232	2,390
8	フラットパネルディスプレイ製造用の機器	848630	146	530	390	1,337	2,344
9	マシニングセンター	845710	444	546	443	1,325	2,158
10	プリンタ・複写機・ファクシミリ部分品・付属品	844399	1,569	1,599	1,422	1,996	2,114

(中国の対日輸出額上位 10 品目)

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	ノートパソコン	847130	1,093	1,770	2,239	4,524	4,305
2	カラーテレビ	852872	1,595	2,011	2,765	3,890	4,227
3	携帯電話	851712	999	979	1,515	2,615	3,598
4	ジャーキー・ブルオーバー・カーディガン・ベスト (人造繊維製のもの)	611030	1,204	1,478	1,582	2,820	3,490
5	液晶デバイス	901380	3,791	3,455	2,387	2,708	2,770
6	フェロアロイ (その他のもの)	720299	2,666	2,535	1,975	2,808	2,681
7	ビデオデッキ	852190	1,771	1,740	1,035	2,232	2,390
8	エアコン	841510	146	530	390	1,337	2,344
9	その他の室内遊戯用品	950490	444	546	443	1,325	2,158
10	送信・受信・受像機器の部品	852990	1,569	1,599	1,422	1,996	2,114

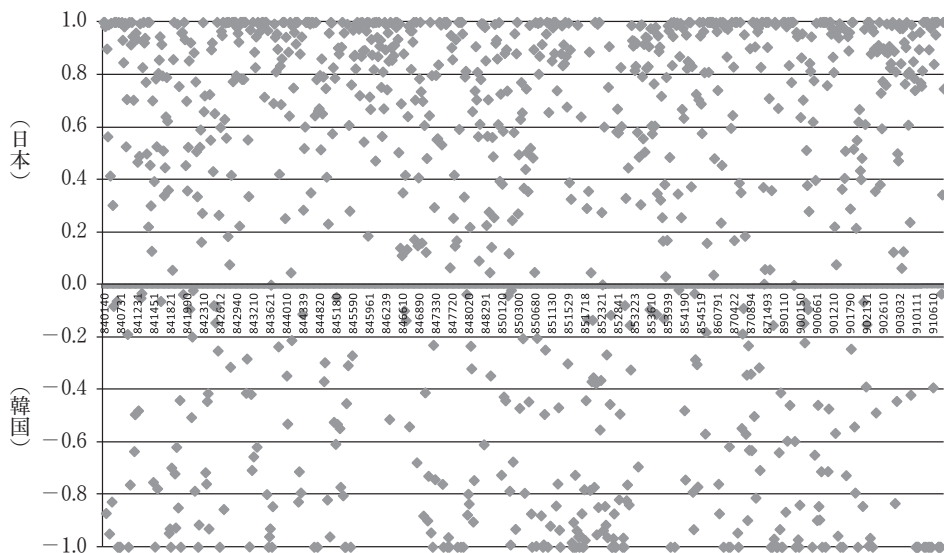
注: 図表 4 と同じ。

出所: 図表 4 と同じ。

ができ、製品を製造する機械は日本からの輸入に依存しているという点は見て取れた。

日本と韓国との間の競合関係を見てみると、日本の優位が示されており、日本の優位を示す 1.0 付近の分布が目立つ (図表 11)。他方で、韓国に優位のある品目は、0 から -1.0 の間で分散しており、韓国で圧倒的に優位にある品目がそれほど多くないのではと思わせる状況になっている。日本に優位のある品目群は、一般機械から精密機械までまんべんなく分布している。特に、韓国に優位があるといえる品目としては、電気機械類と一部の精密機械類に限定しているといっよく、全体的な構造からみれば、日本からの輸出品目の優位にあると考えてよさそうである。具体的な上位 10 品目を日本の対韓輸出品目と韓国の対日輸出品目で比較してみると、日本からは部材や製造機械を輸出し、韓国は完成品を世界市場に輸出するという構造が見られる (図表 12)。具体的には、日本からは製造機械、液晶デバイス用部材、圧延鉄ロールといった品目が輸出され、韓国からは携帯電話や液晶デバイスが輸出されている。日本と韓国の間で注目すべきは、日本の輸出品である「熱間圧延その他の鉄板厚さ 10 mm 超 (720851)」と、韓国の輸出品である「亜鉛めっき鉄ロール幅 600 mm 以上 (除く波型・電気めっき) (721049)」、「冷間圧延

図表 11 日本と韓国の機械情報産業輸出品における競合関係分布



出所：図表 1 と同じ。

図表 12 日本・韓国のそれぞれの輸出額上位 10 品目（6 桁分類・百万米ドル）

(日本の対韓輸出額上位 10 品目)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	半導体製造装置	848620	1,285	984	531	1,708	1,942
2	酢酸セルロース製板・シート等	392073	753	1,071	1,386	1,785	1,732
3	その他の化学工業で残留物	382490	620	731	998	1,435	1,498
4	フラットパネルディスプレイ製造用の機器	848630	583	1,423	626	1,443	1,449
5	熱間圧延その他の鉄板厚さ 10 mm 超	720851	1,095	1,631	1,576	1,287	1,424
6	偏光材料製のシート・板	900120	737	715	720	968	1,301
7	石油・歴青油（除く軽質油・その調整品及び原油）	271019	548	778	643	744	1,293
8	その他の板ガラス（引上げ・吹上げ法）	700490	183	906	922	1,305	1,288
9	その他の IC・LSI	854239	1,774	1,577	1,278	1,016	990
10	その他の鉄鋼くず（除く切削くず、打抜きくず）	720449	852	932	844	976	980

(韓国の対日輸出上位 10 品目)

	品目名	(品目番号)	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
1	石油・歴青油（除く軽質油・その調製品及び原油）	271019	1,674	1,684	947	1,456	4,278
2	石油・歴青油（軽質油・その調製品、除く原油）	271011	1,844	2,076	1,280	2,047	4,122
3	携帯電話	851712	384	540	638	684	1,858
4	記憶素子 IC・LSI	854232	1,970	1,794	1,293	1,701	1,608
5	その他の未加工銀	710691	268	351	377	702	1,561
6	プロセッサ・コントローラ IC・LSI	854231	1,640	1,312	1,047	928	806
7	亜鉛めっき鉄ロール幅 600 mm 以上（除く波型・電気めっき）	721049	159	224	129	271	430
8	データを送受信・再生する電話機等	851762	144	154	214	303	416
9	冷間圧延鉄コイル幅 600 mm 以上厚さ 0.5-1 mm 以下	720917	225	321	203	283	376
10	液晶デバイス	901380	1,821	1,023	696	836	360

注：図表 9 と同じ。

出所：図表 4 と同じ。

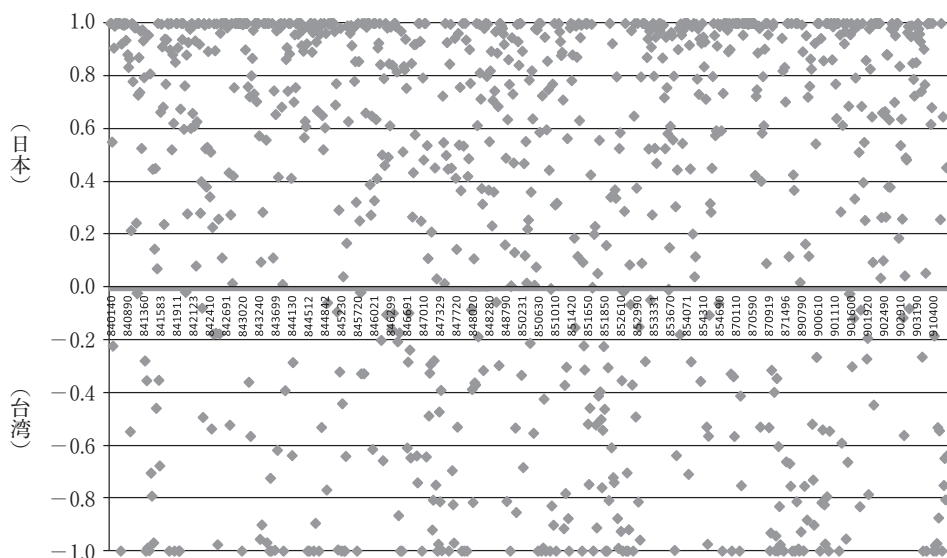
鉄コイル幅 600 mm 以上厚さ 5.5-1 mm 以下 (720917)」である。2011 年の金額でも韓国からの輸出品 2 品目の輸出額を足しても日本からの熱間圧延鉄板の輸出額に及ばないものの、韓国からの輸出額はリーマンショックの影響があった 2009 年を除けば、年々増加しており、今後の動向が注目される。

日本と台湾との間の競合関係を見てみると、日本の優位が非常に目立つ結果となっている (図表 13)。ほとんどの品目で日本の優位が示されており、台湾の優位は、電気機械や精密機械などの一部に限定されている。しかし、多くの品目で分散化の傾向が示されていることから、すみ分けが進んでいる分野と競合関係にある分野の格差があると思われる。さらに、日本と台湾のそれぞれ向けの輸出額上位 10 品目を見てみると、日本の輸出は、部材、原材料、製造機械に集中しており、台湾はその完成品を世界市場に向けて輸出しているものと考えられる (図表 14)。具体的に見てみると「半導体製造装置」や「シリコンウェハー (381800)」を日本から輸出し、台湾から IC・LSI を輸出している。また、「フラットパネル製造用の機器」や「その他の板ガラス」を日本から輸出し、台湾から「液晶デバイス」を世界に輸出している。

次に、中国と韓国との間の関係を見てみると、中国側に 1.0 付近での分布の集中が一部見られるものの、多くの品目で分散している。特に、韓国側での分布については分散傾向が強いことから、全体として競合関係が強い品目が多いが、中国側に優位のある品目が目立っている (図表 15)。特に集中しているものがあるわけではなく、輸送機器での韓国の優位はあるものの、それ以外については中国側の優位が目立つ結果となっている。具体的な品目を上位 10 位までで見ると、中国の対韓輸出上位に計上されている品目は、「携帯電話」や「ノートパソコン」といった電子機器やその部分品が上位に計上しているものの、鉄鋼関連製品の輸出がその後に続いている (図表 16)。具体的には、「ペイントぬり鉄コイル幅 600 mm 以上 (721070)」や「熱間圧延合金鋼コイル幅 600 mm 以上 (722530)」、「その他の鉄鋼製構造物 (730890)」である。金額も「ペイントぬり鉄コイル幅 600 mm 超」が 13 億ドルと比較的大きな金額を計上している。韓国向けには日本からも「熱間圧延その他の鉄板厚さ 10 mm 超」が 14 億ドルの輸出を計上しており、品目は異なるが同水準の金額となっている。一方で、韓国からの対中輸出も、電子・電気機器の部分品が多く、品目それぞれについては、対中輸出品目と対韓輸出品目が同じものも多く、HS 6 桁分類レベルでは直接競合しているケースも見受けられる。

対照的に中国と台湾の間では、すみ分けが構築されているのではと思われる状況にある (図表 17)。多くの品目で中国側に分布が集中しているものの、1.0 付近と -1.0 付近での分布が目立っており、また、中国側に集中しているものと、台湾側に集中しているものが目立つ。具体的には、一般機械、電子機械、精密機械などでの中国側の集中が目立つ一方で、工作機械関連については、台湾の圧倒的な優位が見て取れる。たとえば、「ウォータージェット加工機 (8456)」や「マシニ

図表 13 日本と台湾の機械情報産業輸出品における競合関係分布



出所：図表 1 と同じ。

図表 14 日本・台湾のそれぞれの輸出額上位 10 品目（6 桁分類・百万米ドル）

(日本の対台輸出額上位 10 品目)

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	記憶素子 IC・LSI	854232	2,409	2,696	3,508	4,199	3,991
2	半導体製造装置	848620	3,555	1,787	1,313	2,599	2,038
3	その他の IC・LSI	854239	1,285	1,154	976	1,442	1,308
4	バラキシレン	290243	712	708	729	790	1,207
5	鉄類半製品（長方形・炭素 0.25%未満）	720712	702	1,081	760	843	1,149
6	シリコンウェハー	381800	1,326	1,214	655	1,100	1,027
7	その他の板ガラス（引上げ・吹上げ法）	700490	191	713	651	1,063	993
8	その他の化学工業で残留物	382490	775	653	529	782	931
9	陰極銅・その切断片	740311	854	666	594	771	864
10	フラットパネルディスプレイ製造用の機器	848630	471	1,836	827	1,533	776

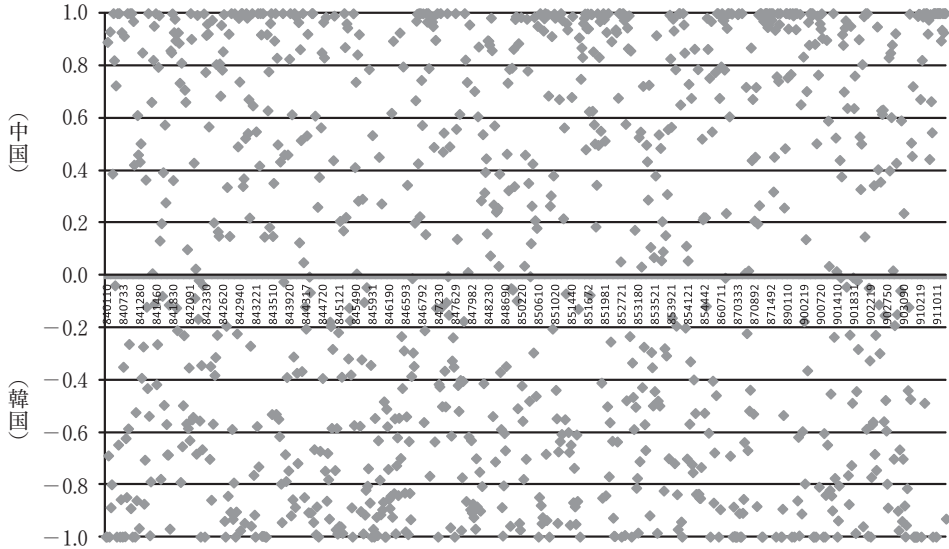
(台湾の対日輸出額上位 10 品目)

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	その他の IC・LSI	854239	0	2	3,797	3,801	2,795
2	記憶素子 IC・LSI	854232	0	0	729	1,668	623
3	光電性半導体デバイス及び発光ダイオード	854140	147	182	211	481	410
4	ポリ（エチレンテレフタレート）	390760	185	251	174	226	355
5	光学媒体	852340	0	0	219	262	300
6	写真機・映写機用対物レンズ	900211	70	114	156	188	298
7	めばちまぐる（冷凍のもの）	030344	208	271	209	262	294
8	コンピュータ等の部品	847330	475	388	320	387	282
9	不揮発性半導体記憶装置	852351	0	0	273	293	269
10	熱間圧延その他の鉄コイル厚さ 3mm 未満	720839	158	225	130	182	260

注：図表 9 と同じ。

出所：図表 4 と同じ。

図表 15 中国と韓国の機械情報産業輸出品における競合関係分布



出所：図表 1 と同じ。

図表 16 中国・韓国のそれぞれの輸出額上位 10 品目（6 桁分類・百万米ドル）

（中国の対韓輸出額上位 10 品目）

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	電話機の部分品	851770	2,545	3,342	3,224	3,668	5,375
2	携帯電話	851712	455	3,010	3,515	3,606	4,072
3	記憶素子 IC・LSI	854232	1,780	2,559	1,776	2,653	2,918
4	液晶デバイス	901380	796	971	1,144	1,893	2,455
5	ノートパソコン	847130	900	2,546	2,872	3,333	2,367
6	ペイントぬり鉄コイル幅 600 mm 以上	721070	58	1,060	367	507	1,322
7	その他の貨物船, 貨客船	890190	121	142	521	1,237	1,285
8	その他の鉄鋼製構造物	730890	370	621	642	1,080	1,253
9	熱間圧延合金鋼コイル幅 600 mm 以上	722530	8	310	29	111	1,133
10	ワイヤーハーネス	854430	536	538	500	702	983

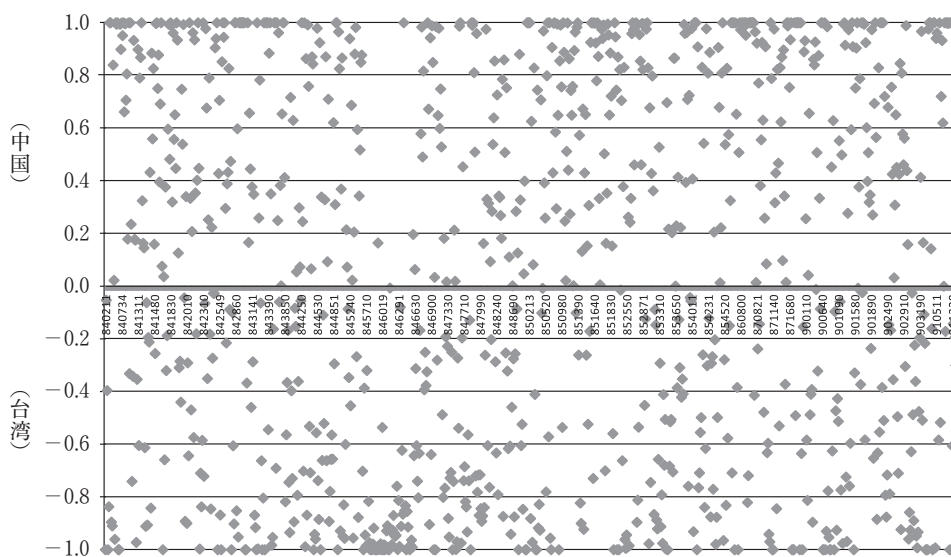
（韓国の対中輸出額上位 10 品目）

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	液晶デバイス	901380	5,455	6,625	12,570	17,874	19,455
2	石油・歴青油（除く軽質油・その調製品及び原油）	271019	4,069	6,888	3,313	4,614	8,717
3	記憶素子 IC・LSI	854232	4,422	3,800	4,178	9,466	6,802
4	プロセッサ・コントローラ IC・LSI	854231	1,719	2,147	1,956	2,384	4,030
5	テレフタル酸, その塩	291736	2,369	2,804	2,522	2,858	3,706
6	電話機の部分品	851770	4,719	5,169	4,859	3,946	3,699
7	その他の自動車部品	870899	1,791	1,290	1,898	2,759	2,850
8	乗用車（ガソリンエンジン, 1,500-3,000 cc）	870323	516	701	783	1,215	2,026
9	パラキシレン	290243	1,145	1,115	829	814	1,909
10	光電性半導体デバイス及び発光ダイオード	854140	221	243	465	1,426	1,887

注：図表 9 と同じ。

出所：図表 4 と同じ。

図表 17 中国と台湾の機械情報産業輸出品における競合関係分布



出所：図表 1 と同じ。

図表 18 中国・台湾のそれぞれの輸出額上位 10 品目（6 桁分類・百万米ドル）

(中国の対台輸出額上位 10 品目)

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	プロセッサ・コントローラ IC・LSI	854231	1,008	1,032	1,017	1,425	1,436
2	電話機の部分品	851770	493	705	615	1,029	1,416
3	記憶素子 IC・LSI	854232	780	552	752	1,228	1,385
4	シリコンウェハー	381800	450	897	794	1,213	1,347
5	液晶デバイス	901380	784	923	793	1,082	1,251
6	ノートパソコン	847130	500	623	919	873	822
7	印刷回路	853400	417	503	499	626	812
8	コンピュータ等の部品	847330	1,125	907	635	753	723
9	不揮発性半導体記憶装置	852351	270	334	359	645	673
10	熱間圧延ステンレス鋼コイル 600 mm 上厚さ 3-4.75 mm	721913	63	18	22	112	659

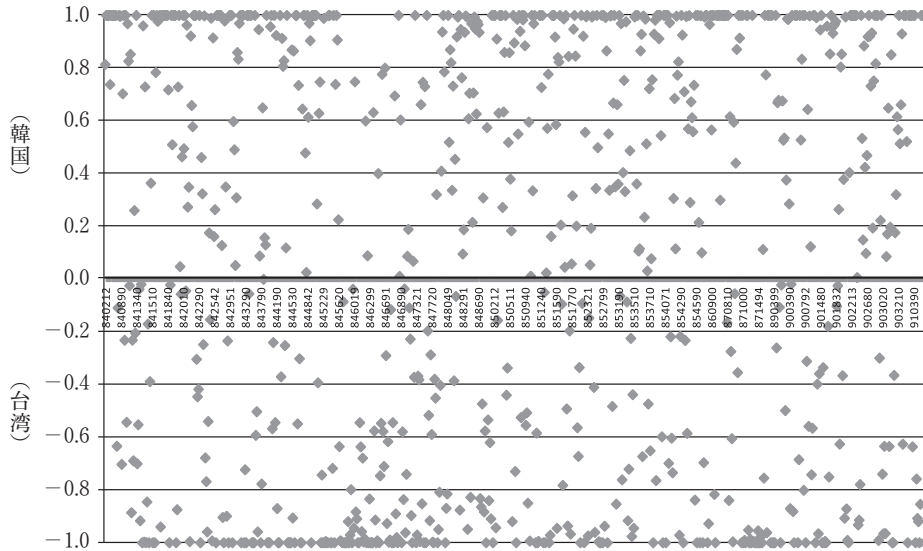
(台湾の対中輸出額上位 10 品目)

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	その他の IC・LSI	854239	0	0	5,618	7,077	8,018
2	液晶デバイス	901380	4,695	4,251	5,653	9,302	7,812
3	液晶デバイス等の部品・付属品	901390	7,664	10,679	4,703	6,063	5,998
4	テレフタル酸, その塩	291736	1,574	1,449	1,553	2,309	3,347
5	印刷回路	853400	1,832	1,693	1,413	1,772	2,472
6	光電性半導体デバイス及び発光ダイオード	854140	577	976	1,086	2,060	2,307
7	記憶素子 IC・LSI	854232	0	0	978	1,957	1,768
8	偏光材料製のシート・板	900120	524	715	973	1,333	1,608
9	エチレングリコール (エタンジオール)	290531	1,036	1,382	723	1,030	1,320
10	アクリロニトリル-ブタジエン-スチレン (ABS) 共重合体	390330	873	927	883	1,303	1,304

注：図表 9 と同じ。

出所：図表 4 と同じ。

図表 19 韓国と台湾の機械情報産業輸出品における競合関係分布



出所：図表 1 と同じ。

図表 20 韓国・台湾のそれぞれの輸出額上位 10 品目（6 桁分類・百万米ドル）

(韓国の対台輸出額上位 10 品目)

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	記憶素子 IC・LSI	854232	2,937	2,146	1,582	2,454	3,254
2	石油・壓青油（除く軽質油・その調整品及び原油）	271019	97	123	157	330	2,206
3	プロセッサ・コントローラ IC・LSI	854231	1,514	1,289	1,121	1,613	1,539
4	バラキシレン	290243	231	188	238	439	804
5	けい素（けい素の含有量が 99.9%以上のもの）	280461	20	91	159	267	496
6	その他の貨物船・貨客船	890190	0	0	0	2	466
7	不揮発性半導体記憶装置	852351	182	171	230	342	367
8	ベンゼン	290220	404	274	197	342	357
9	シリコンウェハー	381800	129	90	104	251	344
10	金の一次製品	710813	94	153	213	282	267

(台湾の対韓輸出額上位 10 品目)

	品 目 名	(品目番号)	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
1	その他の IC・LSI	854239	0	0	2,702	3,916	4,942
2	光電性半導体デバイス及び発光ダイオード	854140	178	278	349	738	567
3	印刷回路	853400	229	247	217	395	456
4	記憶素子 IC・LSI	854232	0	0	81	187	416
5	不揮発性半導体記憶装置	852351	0	0	167	376	330
6	熱間圧延その他の鉄コイル厚さ 3mm 未満	720839	92	161	210	211	305
7	携帯電話	851712	0	0	30	156	222
8	液晶デバイス等の部品・付属品	901390	49	39	21	42	127
9	石油・壓青油（除く軽質油・その調整品及び原油）	271019	72	83	145	159	118
10	シリコンウェハー	381800	19	38	93	163	115

注：図表 9 と同じ。

出所：図表 4 と同じ。

ングセンタ (8457)」、「旋盤加工機 (8462)」などは台湾の圧倒的な優位を示している。これらは日中の関係でも同様の傾向がうかがえることから、加工機械は日本や台湾からの輸入に依然として依存しているものと考えられる。具体的な輸出品目上位 10 品目を見ても、「液晶デバイス」のように一部では競合する品目があるものの、台湾の対中輸出品を見ても、「液晶デバイス等の部品・付属品 (901390)」や「偏光材料製のシート・板 (900120)」といった電子・電気機器向け部材の輸出を見ることができる (図表 18)。また、機械情報産業とは異なるが、ポリエステル原料である「テレフタル酸、その塩 (291736)」と「エチレングリコール (エタンジオール) (290531)」、家電製品の筐体や自動車の内装部品の原料である「アクリロニトリル-ブタジエンスチレン (ABS) 共重合体 (390330)」も中国に向けて輸出される品目の上位となっている。

韓国と台湾との間の状況を見てみると、多くの品目で、1.0 付近と -1.0 付近での分布が目立っており、全体としてはすみ分けの状態にあるような結果となっている (図表 19)。品目ごとに見ても、中国と台湾との間の関係と類似点がうかがえる。具体的に見てみると、一般機械類の多くで、韓国の優位が目立っているものの、中国と台湾の状況と同様に、工作機械類については台湾に優位があることが分かる。電子機械や輸送機械、精密機械では、韓国の優位が目立っている。さらに、韓国と台湾との間で特徴的なのは、0 付近の分布が非常に少ない点にある。このことは、韓国と台湾との間での競合関係が少ないことを示しているものである。しかしながら、韓国と台湾の輸出額上位 10 品目を取り上げてみると競合しているような状況になる (図表 20)。IC・LSI やその部材などは双方ともに輸出品の上位に計上されている。さらに半導体の材料となるシリコンウェハーも両国ともに上位に計上されている。一方で台湾からは電子機器の部材輸出が目立っている。他方で、韓国では、世界輸出上位と台湾向け輸出上位でのかい離が一部うかがえる。具体的には、韓国にとって世界市場向けで上位にあった「携帯電話」については、台湾の対韓輸出品上位に計上されているが、韓国からの品目としては計上されていない点も注目される。

5. 日本の輸出上位品目における中国・韓国の輸入状況

これまでみたとおり、日本からは中国や韓国に向けて原材料や製造機械を輸出しており、「原料や製造機械を輸出し、製品を輸入する」という構造にあるとも考えられる状況である。それでは、日本にとっての主要な輸出相手先である中国と韓国の輸入市場において、日本製品は優位を確保しているのかを以下では見てみる。

日本の対中輸出上位 10 品目の中から注目品目として取り上げたのは、「マシニングセンタ (845710)」、「フラットパネルディスプレイ (FPD) 製造用の機器 (848630)」、「その他の IC・LSI」、「乗用車 (ガソリンエンジン, 1,500-3,000 cc) (870323)」、「ギアボックス (870840)」,

「液晶デバイス (901380)」の6品目である(図表21)。「マシニングセンタ」も「FPD製造用の機器」とともに、中国の輸入において日本が圧倒的なシェアを示しており、FPD製造用の機器のシェアは横ばいであるものの、マシニングセンタについてはそのシェアを拡大させている。輸入額は増加傾向を示していることから、この分野における日本製品の優位は維持・拡大されている状況と考えられる。一方で、「その他のIC・LSI」については、日本のシェアは横ばいであるものの、台湾、韓国のシェアが大きく、その状況は2007年以降、大きく変化はしていない。しかし、金額面では増加傾向を示している。自動車関連は、日本の優位が示される品目の1つであるが、完成車、ギアボックスともにドイツとの競争が見られる。「乗用車(ガソリンエンジン、1,500-3,000cc)」は、ドイツのシェアがほぼ横ばいなのに対して、日本のシェアは減少傾向を示している。中国での現地生産が進んでいるためと考えられるが、ドイツメーカーについても日本メーカー同様、現地生産を進めている。さらに、金額面でも拡大傾向にある。また、「ギアボッ

図表21 中国の輸入注目品における各国シェア(百万米ドル・%)

マシニングセンタ (845710)						フラットパネルディスプレイ製造用の機器 (848630)							
		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年			2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
	輸入額	1,726	2,087	1,547	3,410	4,867		輸入額	658	1,245	1,044	2,376	4,002
1	日本	46.9%	43.9%	39.3%	56.0%	60.3%	1	日本	66.6%	59.3%	40.7%	65.7%	68.3%
2	ドイツ	14.6%	19.6%	21.8%	14.5%	14.1%	2	韓国	7.8%	22.0%	12.3%	14.2%	14.8%
3	台湾	20.6%	15.8%	11.8%	12.9%	11.2%	3	台湾	13.3%	7.8%	5.5%	16.0%	12.0%
4	韓国	8.4%	7.9%	9.3%	6.6%	5.8%	4	米国	10.5%	7.9%	5.8%	2.2%	2.5%
5	イタリア	1.9%	3.4%	6.6%	3.1%	2.2%	5	オランダ	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.7%

その他のIC・LSI (854239)						乗用車 (1,500-3,000cc) (870323)							
		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年			2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
	輸入額	19,367	22,051	23,652	30,831	31,339		輸入額	4,296	5,670	8,447	18,013	26,276
1	台湾	29.8%	25.5%	25.8%	25.5%	27.4%	1	ドイツ	38.3%	29.4%	37.0%	42.7%	39.7%
2	韓国	12.6%	17.0%	17.2%	13.9%	14.5%	2	日本	27.1%	30.9%	26.3%	25.5%	17.4%
3	日本	14.2%	13.9%	12.4%	12.1%	11.3%	3	米国	9.6%	13.5%	14.5%	9.7%	11.8%
4	マレーシア	8.5%	9.1%	8.7%	9.2%	9.0%	4	スロバキア	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	9.9%
5	フィリピン	6.2%	6.3%	5.9%	6.7%	6.7%	5	韓国	11.7%	12.6%	9.8%	7.0%	7.8%
							17	台湾	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%

ギアボックス (870840)						液晶デバイス (901380)							
		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年			2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
	輸入額	3,274	3,979	4,986	7,450	8,865		輸入額	41,778	45,023	35,087	46,818	47,350
1	日本	54.7%	59.5%	63.1%	56.7%	53.6%	1	韓国	32.1%	31.0%	38.2%	40.2%	41.9%
2	ドイツ	18.5%	21.0%	18.0%	20.6%	22.5%	2	台湾	38.1%	38.0%	33.1%	34.3%	30.0%
3	韓国	7.3%	6.8%	9.9%	12.6%	12.2%	3	日本	8.6%	10.9%	10.0%	9.3%	10.7%
4	フランス	5.4%	4.7%	3.0%	4.0%	3.6%	4	香港	0.4%	0.3%	0.2%	0.3%	0.2%
5	米国	6.3%	3.8%	3.1%	2.9%	2.7%	5	マレーシア	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%
12	台湾	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%							

出所：図表1と同じ。

図表 22 韓国の輸入注目品における各国シェア（百万米ドル・％）

その他の板ガラス（700490）						熱間圧延その他の鉄板厚さ 10 mm 超（720851）							
		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年			2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
	輸 入 額	735	952	1,022	1,392	1,369		輸 入 額	2,897	7,199	3,749	2,837	3,570
1	日 本	98.1%	99.6%	98.7%	98.8%	97.5%	1	中 国	55.6%	69.4%	48.2%	51.9%	51.9%
2	台 湾	0.0%	0.1%	0.3%	0.2%	1.0%	2	日 本	41.7%	26.1%	47.3%	46.4%	45.7%
3	中 国	0.2%	0.1%	0.5%	0.5%	0.6%	3	ド イ ツ	0.6%	0.8%	1.8%	0.3%	0.8%
4	シンガポール	0.6%	0.0%	0.2%	0.4%	0.4%	4	オーストリア	0.1%	0.0%	0.1%	0.2%	0.7%
5	米 国	0.1%	0.1%	0.3%	0.1%	0.3%	5	ベルギー	0.6%	0.1%	0.2%	0.4%	0.4%
							13	台 湾	0.4%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%

半導体製造装置（848620）						フラットパネルディスプレイ製造用の機器（848630）							
		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年			2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
	輸 入 額	5,659	3,516	2,214	6,726	5,803		輸 入 額	800	2,186	807	2,049	1,706
1	オランダ	26.8%	37.1%	24.5%	30.1%	33.0%	1	日 本	76.9%	81.4%	83.5%	81.7%	92.7%
2	日 本	23.6%	20.8%	24.8%	25.8%	29.2%	2	米 国	17.5%	14.4%	10.0%	9.0%	4.1%
3	米 国	46.6%	38.0%	35.8%	38.0%	27.3%	3	台 湾	0.0%	2.3%	2.8%	6.7%	1.7%
4	シンガポール	0.1%	0.0%	0.3%	2.1%	5.1%	4	シンガポール	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.5%
5	ド イ ツ	1.5%	2.4%	12.7%	2.8%	3.2%	5	ド イ ツ	5.2%	1.6%	3.5%	1.1%	0.4%
7	中 国	0.0%	0.1%	0.2%	0.2%	0.5%	6	中 国	0.2%	0.2%	0.1%	0.7%	0.3%
13	台 湾	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%							

その他の IC・LSI（854239）						偏光材料製のシート・板（900120）							
		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年			2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
	輸 入 額	5,130	5,166	6,044	5,438	5,366		輸 入 額	1,061	911	1,072	1,357	1,675
1	シンガポール	31.2%	41.8%	44.7%	32.8%	29.4%	1	日 本	58.2%	75.4%	76.4%	69.4%	71.2%
2	台 湾	14.9%	17.6%	15.7%	15.3%	15.5%	2	中 国	8.5%	3.8%	4.9%	11.2%	17.3%
3	日 本	6.7%	6.1%	6.6%	8.4%	11.1%	3	米 国	28.0%	14.8%	13.1%	14.8%	8.4%
4	中 国	9.8%	6.6%	7.8%	10.3%	10.9%	4	台 湾	4.6%	4.8%	5.1%	4.3%	2.8%
5	マレーシア	6.1%	5.6%	6.0%	7.9%	9.0%	5	香 港	0.0%	0.8%	0.1%	0.1%	0.1%

出所：図表 1 と同じ。

クス（870840）」については、日本の優位の状況が続いているが、ドイツのシェアは拡大傾向にある。また、ギアボックスについては韓国のシェアも増加している。これについてはフランスとアメリカのシェア低下がみられることから、フランスとアメリカの低半分をドイツと韓国で賄っている可能性が考えられる。このように、日本の対中輸出品目において、優位があるものは、製造機械であり、自動車及び関連部品については、優位にあるものの、ドイツや韓国との競争にさらされている状況にある。一方で、半導体や電子機器についてはすでに、韓国・台湾の優位が示されており、日本はそのシェアで 2 番手、3 番手という状況である。この点から見てみると、製造機械については日本の優位は示されているものの、部品素材については、競争関係にあるか、韓国や台湾の優位という状況になっている。

日本の対韓輸出品目として注目品として取り上げたのは、「その他の板ガラス（700490）」、「熱

間圧延その他の鉄板厚さ 10 mm 超 (720851)」、「半導体製造装置 (848620)」、「フラットパネルディスプレイ (FPD) の製造用機器 (848630)」、「その他の IC・LSI」、「偏光材料製のシート・板 (900120)」である (図表 22)。ここに示した通り、韓国向けで日本が大きなシェアを占めているのが、FPD 関連のその他の板ガラス、FPD 製造用の機器、偏光材料製のシート・板である。世界的に大きなシェアを占めている韓国製 FPD の製造機器や主要部品の輸入は日本の圧倒的な優位となっている。一方で、競合関係にあるのが、「熱間圧延その他の鉄板厚さ 10 mm 超」と「半導体製造装置」である。半導体製造装置については、日本のシェアはほぼ横ばいであるが、オランダのシェアが上昇し、アメリカのシェアが低下傾向にある。韓国については、部品・素材から製造装置までで優位を確保しているものの、その中身は、特定の分野に偏っている傾向がうかがえる。つまり、韓国 FPD 産業の動向によって、日本からの輸出が大きく影響される可能性が高く、その構造が強固なものとは言い難い。

まとめにかえて

ここまでみてきたように、東アジアの 4 か国地域における貿易リンケージは、日本を中心とした構造にあると考えられる。これまで、指摘されてきたように、「日本から部材や資本財を供給して、完成品を東アジアから日本を含めた世界に輸出する」という構造が確認できた。中国や台湾、韓国の貿易構造は、日本への補完・依存傾向が強いものも多く、中国・台湾・韓国間の貿易関係は依存よりも競合関係が見られる。この点から、日本が東アジアの各国・地域に部品素材や製造装置を輸出して完成品を輸入するという構造は間違っているわけではない。東アジアの国際分業体制の中で、日本を軸とした工程間分業の構造が機能しているものと考えられる。しかし、この構造をもとに、日本が圧倒的に優位な立場にあるとは言いにくい状況も確認できた。例えば、自動車関連では、中国向けではドイツとの競合関係にあり、韓国向けでは、FPD 関連では多くの優位を示しているものの、半導体については半導体の輸出についても製造装置についても日本が圧倒的に優位を確保しているとは言い難い。つまり、東アジアにおける国際分業体制のなかで、日本にとって望ましい構造にあると考えられるのは、現状では、FPD 産業に限られる。さらに、FPD 関連については、韓国向けで圧倒的な優位を示しているものの、中国や台湾向けでは、韓国向けのような構造を見ることはできなかった。この点から、日本の FPD 産業についても、韓国の FPD 産業の今後の動向に大きく影響されることになる⁹⁾。

東アジアにおける国際分業の状況が進展していることは、各種資料にて指摘されており、部品素材や製造装置を日本から供給して最終製品を、中国をはじめとした東アジア諸国が輸出するという補完関係は、統計からも改めて確認できた。しかしながら、これをもって、日本の優位を示

すものという観点からは、留意が必要であると考ええる。つまり、部品素材や製造装置において日本が圧倒的に優位にある分野はそれほど多くなく、韓国向けの FPD 関連やマシニングセンタなど一部の製造装置に限定されている。また、FPD 関連については、韓国 FPD 産業の動向次第という点も考えられる。これまで、日本製品に優位があるといわれてきた鉄鋼製品や半導体製造装置については、東アジア向けにおいては圧倒的な優位を示しているわけではなく、部品や素材に関しても、同じ東アジア諸国との競合関係にある品目が上位に示されている。

この傾向は、さらに昨今の経済状況に大きく影響される。とりわけ中国における「尖閣デモ」やそれに伴う販売低迷の状況は、輸出状況に大きく影響を与えている。回復までに若干の期間は必要となると考えられ、その間に競合国の輸出が拡大することは十分に予想され、回復後の状況にも何らかの影響をもたらすものと考えられる。今後の状況に注視が必要となるだろう。

《注》

- (1) この間の対外直接投資金額のデータは、独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）の統計データによる。詳細はジェトロホームページ「統計ナビ」, 「日本の直接投資統計」(<http://www.jetro.go.jp/world/japan/stats/fdi/>)を参照（2012年9月11日閲覧）。
- (2) 台湾を含めるため、「4か国・地域」とすべきであるが、紙幅の関係などから、以降、「4か国」と表記する場合がある。また、台湾を取り上げる際に「国」として明記する場合もあるが、同様の理由による。
- (3) 「機械情報産業」という言葉は、旧通商産業省「機械情報産業局」が主にカバーしていた産業を分類する際に使われる産業の分類である。「日本標準産業分類」には、「機械情報産業」という分類は存在しない。ただし本稿では取り上げていない産業もいくつか存在する。
- (4) 税関「(参考) 税関長公示レート月平均・年平均」, 『財務省貿易統計』(<http://www.customs.go.jp/tetsuzuki/kawase/kawase2011/monthly-average.pdf>) 参照（2012年9月11日閲覧）。2008年の円/ドル（年平均）は104.23円, 2011年は79.97円で計算した。
- (5) ただし、10位以下に機械情報関連品目が多く計上されている。例えば、11位に「その他のIC・LSI (854239)」, 13位に「ノートパソコン (847130)」, 16位に「カラーテレビ (852872)」, 17位に「インターネット接続機器 (851762)」, 18位に「記憶素子IC・LSI (854232)」, 19位に「乗用車（ガソリンエンジン, 1,500-3,000 cc）(870323)」などである。
- (6) 三菱電機「放電加工機の原理・特長」(<http://www.mitsubishielectric.co.jp/fa/products/mecha/edm/japanese/product/introduction/sinkeredm.html>) 2012年11月9日参照。
- (7) ここで、競合関係を示した指数は（日本の対中輸出額－中国の対日輸出額）／（日本の対中輸出額＋中国の対日輸出額）で表した。計算方式としては貿易特化係数と同じである。以下、2国間の計算方法は同じ。
- (8) 本来、貿易特化係数は（輸出－輸入）／（輸出＋輸入）で計算するが、ここでは前述の競合関係を表した指数の計算方法と同様に、（日本の対中輸出－中国の対日輸出）／（日本の対中輸出＋中国の対日輸出）で計算した。
- (9) 日本の台湾向け輸出でも「フラットパネルディスプレイ製造用の機器」の輸出は上位にあるが、金額が韓国向け輸出額より小さいこと、2010年から2011年にかけて、輸出額が大幅に減少しているこ

となどがあげられることから、考慮していない。

参考文献

- 天野倫文（2005）『東アジアの国際分業と日本企業』，有斐閣
大木博巳編著（2008）『東アジア国際分業の拡大と日本』ジェトロ
機械振興協会経済研究所（2006）『「プラットフォーム」に取り組むべき日本機械産業——日韓アプローチの差異を踏まえて——』，財団法人機械振興協会経済研究所
経済産業省（2011）『通商白書2011』
塩地洋編著（2008）『東アジア競争優位産業の競争力』，ミネルヴァ書房
水野順子（2011）『韓国の輸出戦略と技術ネットワーク——家電・情報産業にみる対日赤字問題——』，アジア経済研究所

* 本稿は、平成23年度城西大学学長所管研究奨励金による助成研究「東アジアの貿易構造と産業リンケージの現状」による研究の一部である。